津奈木

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話（代表115番）
編集人　岡松　壮
印刷所　緒方印刷所
八代市通町
電話（八代）② 3117番

＊みんなあいさつ　心であいさつ

山びこ政治
移動町政について

町長　鶴田宣尊

私たち役場のものは、みなさんのお一人お一人の生活がゆたかで幸福であるように、次の課・係りに分れて仕事をしています。

一、総務課
①職員の進退及び身分　②議会及び町の一般行政　③財政　④財産　⑤防災　⑥交通

二、企画課
①町の総合開発　②町の振興計画　③事業計画の総合調整　④農業振興　⑤農業改善事業

三、税務課
①税　②国民健康保険

四、町民課
①戸籍　住民登録　②社会福祉　③児童福祉　④社会保険　⑤衛生　⑥労働　⑦公害

五、経済課
①農畜産　②林漁業　③商工　④観光　⑤農業共済

六、建設課
①道路・河川　②住宅建築　③水道　④土地改良　⑤港湾

私たちの仕事は、津奈木のみなさんとかかわりなしには成りたちません。いいかえると、うんと役場をご利用下さることによって、また、役場からのお願いをすることをお聞き下さることによって、みなさんの生活が向上し、町はますます発展すると思います。

そういう意味で、「移動町政」を開いています。

水戸黄門が、助さん格さんをつれて、わが統治する領地を漫遊して、民情を視察し、苦情を探り、曲れるを正し、正しきを助けて、よい政治をされたように……。

私も、課長をつれて、各部落に出かけ、みなさんのご希望・苦情・ご意見など聞き、一方、私たちの現在やっていることをお聞かせもしたいと、ご希望の期日に出かけています。

どこかで、「すぐやる課」を設けて評判になっています。そうでなくてはなりません。私も大いに賛成です。七月六日に天草の大災害が報ぜられると、七日には米十俵水十トンをつんで見舞に行きました。十日にはみなさんの厚いご同情の品々を四隻に積んで二度目のお見舞をいたしました。おそらく天草救援の第一号であったろうと思います。今まで、苦情・希望は聞きっぱなし「いうても同じこつ」であったかもしれません。私は、町会の議決を経なければならぬものは別として、小額でできることはすぐやります。

どうぞ、定められた「移動町政」の日にはご出席下さって、感心な子供・大人のことなどまでも教えて下さい。

津南中学校改築起工式

去る七月二十五日の吉日をえらんで、中学校建築地で起工式が行なわれた。県事務所より出田所長、教育事務所の武田所長、田中県会議員らの外、町内よりは町議・区長など多数参列あり、設計は大栄設計、建築は酒井建設。

水泳大会

七月三十日（日）午後一時より、町営プールで。水泳は走るようにはいかぬので、年令は下がっている。十三部落が参加し、十三チームで競泳、成績は次の通り。

一位　大泊　二位　浜崎　三位　倉谷　以下略

津奈木方言
チンナリタンナル（九）

○アド　かがと
○エタ　うで
○ゴテ　せなか
○ゴラ　頭
○ジゴ　尻
○ツバ　くちびる
○ツト　すねのうら
○テナンカケ　背の上部
○ビンタ　頭
○フテグチ　ひたい
○フガミ　下腹部
○ボノクド　後頭部の凹部
○ガエアタマ　肥大頭
○キャケ　感冒
○アレゴ　洗いものするところ
○エンチ　自分の家
○サマ　窓
○ヨコザ　主人の座席
○ワゾ　袋
○ハンズ　水がめ
○ガッサイ　手さげ袋
○カガリ　かずら製のかご
○イモドシ　受けた労力をもどす
○ゲンゾ　面会
○サナボリ　田植終り
○シリクチバナシ　ワイ談
○シコマエ　準備
○サンゲシ　竹馬
○チョカ　水を入れる焼物容器
○イタグラ　あぐら
○ソヨ　費用
○ムカワリ　生後一年目の誕生日
○ヨグリ　夜魚をとる
○ヨナベ　夜業
○ヨバイ　夜女の所に忍んでゆく
○ヒラキ　開こん
○アンポシ　干柿
○チャノコ　朝仕事前の食事
○アコクヌ　夕方
○オバネ　頂上
○アナゼ　北西風
○ヘジカネ　平時、いつも
○ハエンカゼ　南風
○コノジュ　昔
○ベンサシ　指導者　親方　主人
○チャン　父　カン　母
○デーサン　父　カカサン　母
○ナゴ　資産家の田畑を世話する
○イボナシ　不潔者
○メッチョ　オナメロ　メタ
○ツクラ　ふところ
○ビキ　かえる
○バクリュー　牛馬商人
○コメドラ　米俵　麦ドラ
○ゴヘダ　石炭
○スッタレ　末子
○ヌスカイ　売春婦
○ハッダカ　凪
○ツケギ　マッチ
○ヨモジ　腰巻
○チキリ　はかり
○ヤツ　灸
○ケット　毛布
○オキ　火のついている木炭
○ジェクタン　ぬかるみ
○ヨンニョ　うんと
○デンゴ足　大足
○ベンベン　きもの（子供ことば）
○スラゴト　うそ
○ドヤス　打つ

＊とびだすな　こわい車の通る道

民生委員協議会全国表彰

民生委員協議会（田上一智・鳥居トメ・福田信順・山口登語・西滋子・吉野ヒサエ・森山シズエ・上村忠行・小島隆一）は、運営が卓越し、活動が優秀であるところから、去る六月十四日、北海道札幌での全国大会で、全国三十の中の一として表彰された。

なお、新しく四人の委員を加えて十三人とし、更に行届いたお世話をされることになっている。

短歌

鶴田和子

○二坪をおおいて咲きし夾竹桃は猛毒ありと切り倒される
○水害につぶされし家屋の一部かと思わるる　板ぎれのあまた流れくる

志崎鳥末

○父の身を気遣うほどの心あらばなぜ鬼のごとき殺人なせるか
○山桜花は咲けども世は移り大和心やいずくにか去る
○金婚の五十路は遠くまた近し　つれづれふける若かりしころ

大岩楞子

○武司の名にふさわしきかなとつくにの父に見せばや端午のかざりを
○たくましくやさしき武司に育てんとかぶと弓矢をかざりて祝う

老人いろは歌

鶴野満真

て　程度ありことのすべてを過ごさずに心に止めて人道歩めば
あ　あやまちはなすまいものと心得て老人たれも過せ一生
さ　さきの世のあるかなきかはしらねども生きてこの世に誠つくせば
き　きのうまで行ないしことぶり返り良きをとりいれ悪しきをすてよ
ゆ　夢の様に生きけり御代の変転に進化のゆくえなお限りなき
め　面々の望む心は皆同じ、健康長命無病息災
み　御代明治大正昭和と生きつぎし世の進展を尚も見たけれ
し　しみじみと心に浮ぶ今の世に生れあわせしことのうれしき
え　鋭気もて心をこめてなすわざは岩をもとおす桑の弓かな
ひ　日の丸は年より子供の手にてあぐ国の祝日ゆめゆめ忘るな
も　ものすべて大事大切すべきこと物にも寿命あればこそなれ
せ　世間なみ並はずれごとなさぬよう心に誓い来る日来る日を
す　寸時をも忘れやらずに健康を適応運動で長命はかれよ

肥後狂句

堀　双岳　選

物足らんピンチヒッターにゃ役不足
物足らんビキが加勢する田植歌
物足らんビキニが居らん海水浴
から元気ちっとこなせば顎ば出す　BHC
物足らん万年池イ寄ってきやァ呑もう
物足らん唯さよならの分れ道
から元気ぎっちり腰して戻らした
から元気犬がほえたら震うとる　双岳
から元気口ばっかりは一人前
から元気いざちゅう時にチュヂュウどる
から元気また腰骨たがゆるぞ
物足らん下戸で無ァこつ知っとろが
物足らん良妻賢母も程のある　拙者
から元気グランド半周でぴっ座わり
から元気戸板に乗って戻らした
物足らんちっと砂糖屋が遠かった
物足らんあんまり短ァ夏の夜　一平
物足らんあの爺さんじゃ奥さんが
物足らん機械じゃ出らん田植歌
物足らんこれ焼酎のあればねェ
から元気イの一番に溜もろた　拙堂
から元気師走に単衣で風邪引いた
物足らんお茶とお菓子で仕舞げな
物足らんもう閉会の笹盃か　健男
物足らんあんまり相手が強すぎた　桃太郎

キング・コブラとの出会い

長浜　学

中部スマトラの西海岸州は山が多く、東海岸州は平地と湿地が多く、ところによっては、どこまでが陸地か川か海か、わからないデルタ地帯がある。

われわれは、その東海岸州に所用で出かけた。

現地は、われわれ駐留地から約三〇〇粁で、二五〇粁を自動車でゆき、五〇粁を舟で行かねばならぬ甚だ不便な所である。途中一泊して翌日発動機船で現地に向った。

早々用件をすませて引揚げることとし、途中舟着場のある村の簡易ホテルに一泊することにした。

水浴と夕食をすませ、報告書を作って、私一人屋外に散歩に出た時は夕日も落ちて少しうす暗くなりかけていた。

ホテルの後には芝生をきれいに刈りこんだ庭があり、その向うはヤシ林をへだててジャングルに続いていた。

私はランニングシャツに、半ズボン、それにサンダルをつっかけて、芝生の庭のあちこちを歩いていると、何かフッと声がしたように感じ、ヤシ林の方、庭を大きく入ったところを見ると、五〇cmほども、かま首をもたげて、フーフーと、丁度猫がけんかするときの声を出して私をにらんでいる。キング・コブラである。

コブラは、シンガポールの街かどなどで蛇つかいが笛を吹いて踊らせているのをよく見かけていたが、そのコブラは、毒歯を抜いてあるので安心だが、これは野性で猛毒があり、嚙まれたら最後、命は一日ももたないと聞いていた。

私はさすがにゾッとして鳥肌がたった。コブラとの距離は三米位。コブラの頭は、フーフーと声を発するたびに、平たく横に拡がり、丁度人の手のひらをひろげて指の先端を曲げた形になり、赤い舌をペロペロ出しながら、今にも、とびかかってきそうである。

私は前にも出られず、かといって後退すればそれにつけ入ってとびかかりそうで、そのまま、じっと立ちすくんでいた。おそらく私の顔は蒼白であったろう。

どれ位、時がたったか、いやに永く感じたが、十秒か十五秒位であったか、コブラの方も別に危害を加えられる心配もないと思ってか、かま首を下げ、怒った形も元の丸い形に戻し、私をさけて、左の方へ動きはじめた。私はじっと、その動きに注目していた。コブラは次第にわれわれの宿舎の方へいったその時である。私の異様な形相で立ちすくんでいるのを見て、コックとボーイが割れ木の薪など手にもって「旦那、コブラだ、あぶない。」と叫びながら三・四人走りよってきた。そして、はいっていく石段の間に、ボーイ達が薪を投げつけたが間にあわず、蛇の体は石段の下に吸いこまれるようにかくれてしまった。

ボーイ達は大さわぎして棒切れで穴をつついていたが、手ごたえはさっぱりありそうにもなかった。

翌日、帰りの舟の中で「昨日あのコブラに嚙まれていたら、今ごろどうなっていたろうかなど想像しながら、移りゆく川岸の熱帯樹をながめ、単調なエンジンの音をきいていた。

緑蔭静思

ナニクソ主義の勝利

玉川大学長　小原国芳

私の少年時代は貧しかった。父のサツマの金山での大失敗。家もやしきも田んぼも、畑も、一切がスッカラカンになりました。母は七人の子供を残して早世。山のような借金を残して父も亡くなり、七人の兄弟でその借金を返すのに、満二十ヵ年もかかった私たちです。

貧乏が骨身にしみこんどる私は後輩の小学生たちに、よく「がんばれ、一生ケンメイやるんだぞ。勉強しろ、働くんだぞ。そしたら、貧乏なんか逃げっちまうよ。ナニクソだ。」

妻のいのり

三浦綾子（作家）

神さま、わたしのような者に、主人のようなすばらしい夫をお与えくださいまして、ありがとうございます。

どうか、恵みに馴れないようにお導きください。

いたわりと感謝

曽野綾子（作家）

どの夫婦も、どちらも、どこか片輪なのだ。自分を棚に上げて、相手を非難してもはじまらない。

充分にいたわってもらえばいい。そのかわり、感謝を忘れないことである。

私のようなものを、ようこそ貰って下さいました。という思いがなければ、夫婦は続いて行きにくい。

学校を盛り上げる子供たち

学校は、学校で希望するある型を作って、例えば、人と仲よくできない子は、できるようにし、規則を守らない子は守るように、よい型にはまった人間を作るところともいえます。だから子供は先生の指導に従い、先生の指導を待ち、いつも受身の立場にあるのが普通です。

ところが津奈木小学校では、子供に「自分たちの学校をよくするにはどうすればよいか」という問題を出した。こうなると、「私たちは何をすればよいか」を考えざるを得なくなった。そして、自分で自分の行ないや、学校をよくするという大きな目標から正して行かざるを得なくなった。つまり、受身でなく、自分で自分を、そして学校を自発的によくしてゆこうとする立場に立たせた。

これが学校のほんとうの姿であり、家庭教育の方向でもあると思う。六年のある子供は、

＊とまって見よう　右・左

東南アジア旅行（つづき）

飛ぶ

大阪三和銀行　伊藤信夫

香港での待ちあわせの時間も終って、いよいよ出発。

機内では予想したとおり、きっすいのアメリカ人と同席、どうやらシンガポールまでらしい。四時間近くもだまっていることは、人間としても、また、生理的にも苦痛である。

恥も外聞も忘れて話しかけると、どうもブッキラでとっつきにくい。職業を聞いたら、貿易商で、最近の日本の輸出の伸びが不快で、それが僕にひびいてきているらしい。

さっそく、「日本はなぜダンピングをやっているのか。」とやってきた。彼がいうには、ダンピングが一様でなく、アメリカで二四〇ドルする日本製ベンタックスが、アジアでは一七〇ドル、シンガポールでは一〇五ドルだった、たとえ彼のいうとおりこれがほんとうであるにせよ、なぜ僕を攻撃するのか。だまって引きさがるのも癪だし、国際的恥辱でもあると思って「アメリカは、今インフレだから、国際競争が弱いのだ」と切返した。

これにはアメリカさんもまいったようだった。彼によると、アメリカでは、週四八時間で、一時間六ドル（一、一六〇円）週につき、一〇万三、六八〇円、

お互いに数字をならべて話し合っている間に、バンコックが近まってきた。

下を見ると、さすが米どころ、四角の田んぼが、一面にひろがっている。

バンコックで二十分休む。空港の周りが田んぼのせいか、とても静かである。

機内では引き続いてダンピング論。

そうこうしている中に、シンガポールである。下に指紋状のゴム園がひろがっている。

空港はヤシの木にかこまれていて、まさに南国、ここで、ほとんどの乗客が下りてしまう。ジャカルタに行く客だけ別な部屋に案内されたが、スチュワーデスが名残おしげに「グッバイ」といっていた。その中の一人の日本人のスチュワーデスが、ここまでという。僕にしてみれば、日本人の顔の見納めである。僕が日本語で「さよなら」というと、「お気をつけて」と返してくれた。

日本を出発したのが朝九時で、ジャワに夜八時着、実飛行時間十五時間くらいか？腰の痛みからして……

乗客二十人くらいで、空席が多い。僕のとなりの中国人が話しかけてきた。中国人の英語はわかりにくい。彼は香港とジャカルタの二ヵ所に居住し、毎週一回、商売上のことで往復する。

さてジャカルタ空港が近くなったらしい。機内の電灯がすべて消された。下の方は街らしく、灯が見えるが、はなやかさがない。

夏をたのしむ

夏バテ退治

学校をよくするには「みんなが助け合う学校にしたい。」例えば、マットのあとしまつをするのに「お前が出したのだからお前がなおせ。」ということがある。次に「ことばづかいをよくすること。」家では「ぼくが」というが、学校では「おが」という。自分だけが「ぼく」というとてれくさいからだ。

三、むだ話をしない。四、動物をかわいがろう。鶏だけに餌をやって七面鳥にはやらないことがある。かわいがらぬから、七面鳥はつつくのだ。**この四つのことをぼく自身も実行していきたい。**

また、ある子は

1、ちりすてをよくする。2、ろうかをはしらない。3、ことばづかいをよくする。4、そうじに力をいれる。5、教室で大声を出さない。6、本のせいとんをする。

（そして最後が生きている。）私はほかになにかあるとおもいますが、どうしても、おもいつきませんでした。

と結んでいる。この子が協力する熱意がありありとうかがわれて、かわゆくてほおずりしてやりたいきりがないので、次に四年生のものから一つ。（原文のまま）

ぼくは、こうしたほがいとおもいます。

こみがおちているときとひらうとゆうことにしたらいとおもいます。

あいさつをするとうしろこうになります。

みんながんばてするとうもきれいになります。

文はたどたどしいが、学校をよくするためには、この人も人後に落ちない。

全生徒がこの気持でいれば、子供は子供でよくなり、学校もよくなるは論をまたない。子供のコツもこのへんにあるか？

××××

その後のことを学校に聞くと、自発的に廊下は走らぬし、ことばづかいもよくなるなど、なにかにつけてよくなっているとのこと。

○つかれをためない

つかれをとる最善の方法は、なんといっても睡眠である。つかれは睡眠によって百%回復しうるもの。また、横になる時間をなるべく多くとることも必要。

○寝床の工夫とねる時刻

汗ばんでね苦しいときでも扇風機はあまりよくない。二階なら窓を開けるのもよい。ゴザを敷くのもよかろう。

次に大切なのは就寝時間。同じ八時間でも、十二時にねた八時間と、十二時すぎにねた八時間とでは違う。夜ふかしせず、少なくとも十一時までにねた方が、つかれをとるのにはよい。

○スタミナのつく食生活

昼食をラーメンやそばですましている人たちに限ってコックリコックリ居眠りする。たとえば酢を使って食欲をそそったり、枝豆やトマト・ハムなど新鮮な野菜と蛋白質を十分とれる冷たいサラダを。

○汗かき

汗をかく。水分を補給せねばならぬ。しかし、あまりがぶ飲みすると、かえって汗をかき、からだも消耗するし、胃液の酸度を低下させて胃腸病の原因ともなる。

○冷房に神経を使おう。

冷房は腰から下が冷える。とくに女性は気をつけること。血圧の高い人は、冷房室と暑い外とを何回も出入りすると、血圧が不安定になる。冷房のきいた室内は、秋の気温、うすいシャツでは夏カゼのもとになる。

無理をしてハダをやくと、夏バテの原因となる。からだの弱い人、とくに肝臓や胃腸の悪い人、生理不順の人は。

○目やけはほどほどに

つくってみるとか。

＊いつもにこにこえがおでおはよう

早いほど有難い

天草災害救援

七月五日の夜から姫戸・竜ケ岳・倉岳地方をおそった七〇〇ミリの集中豪雨は、ついに六日に未曽有の大災害をあたえた。

この報を知った津奈木町では、早速、米・水を持って竜ケ岳町を見舞った。

そして前記の町々がうけた被害の莫大であることをたしかめた町長一行は、一刻の猶予もおかず、各種団体長・区長などと会議、九日中に救援物資を大浜港に運び、十日に発送ときまる。

同情心は損得を超え、衣類・野菜・米など山のように集った。それを二五〇個のダンボール箱につめ、四隻に分けて届けた。なお、四十余万円のお金は日赤を通じて贈った。

この電光石火の早わざは、被害者たちから深い感謝をうけた。早いほど有難い。

津奈木町のこの救援のことが新聞・テレビに出て、初めて他の市町村は動きだしたようなもの。

当局の善処と、町民の美しい心とが、天草災害救援の第一号となった。

お盆の記

堀　二雄

昔から私達の一年の営しを、二度に区切りをしてある。即ち前半は「盆ぎり」とし、後半は「年の晩ぎり」である。一年間をのべらぼんで過ごしてしまうより、一応、中程でしっと締まりをつけようということであろう。

盆の行事は日本国中大同小異で行われるが、わが津奈木町の先祖六車先生の書かれた津奈木郷土誌には、つぎのように書かれてある。

盆会　毎年旧暦七月十三日より十六日までを盆会といって祖先の精霊をまつる。死者ありて初めての盆を「初盆」ととなえて供養をなす。親戚知己より燈籠および物品を贈り、初盆の家には近親ならびに組内をまわって御馳走をする。

いろんな昔から伝わる行事は、年と共に少しずつ形がるものだが、盆会だけは余り変化はなく、今日まで伝わってきているように思われる。

盆といえば、私達が子供のころは正月についで楽しかった人が沢山いったりたりして、たいへんに多かであった。

また、盆には遠くへ行っている人達も殆ど重帰りをし、東京弁や大阪弁で話をして、私達子供には丸まで並雄のように見えたものだった。

そのころは盆ともなれば、子供は当然すぎるほど当然である。

一方、林田伊三郎さんは、自ら「若緑」と名乗り、相撲成績も勝率高く、引退後も、行司をつとめ川にちりをすてないで川を歩ける。エビの住む清くすんだ水にするなど、自然をこわさないようにしよう。その上、まわりに花を植えたり、まわりをきれいにしたり、盤頓をしたりしましょう。

古中尾の老友会の会員が去年に引きつづいて花一ぱい運動をやられることは、県の方針に副うことで、敬服します。本町の家々が、四季を通じて花が咲き、道ばたが花の行列でうずもれる日の早くくることを待っている。

花いっぱい

「美しい熊本づくり」ということは、本年度の熊本県としての重点事業であります。

本町出身荒滝五太夫関の史実の研究と、その顕彰である。

これまで、伝説・物語的であった五太夫の事蹟を史実によって確固不動のものとされ、一方、大関出身の地赤崎に、大きな顕彰碑を建てるなど、相撲道に貢献された功績は大きく、教士七段の免状

吉田追風より表彰《二人》

同じ免状が林田伊三郎さんにも おくられた。林田義人さんの相撲に対する功績は申すまでもなく、

免状

津奈木町
教士七段　林田義人

右者平素国技相撲道を錬磨し思想体育産業の実を獲得せり仍って本会規定に依り教士七段に列す

昭和四十六年十一月吉日

大日本有段相撲
協会理事長
本朝相撲司
第二十四世　吉田追風

青年団便り

県総合青年祭の期日迫る

（九月一・三日）

残す日あと

三十二日間

（八月一日より）

この間、何をなすべきか！

1、体育（陸上・バレー・卓球・角力はどうか、柔道・剣道）

2、意見発表はどうか。

3、芸能（合唱・芸能・演劇・美術はどうか、機関紙・生活）

4、民泊はどうか

津奈木町
青年団員
団結のとき
ガンバレ！